

○奥田 康介¹, 伊丹 哲², 松原 司¹

¹松原メイフラワー病院 整形外科, ²松原メイフラワー病院 内科

【目的】 RA 患者において線維筋痛症 (FM) の合併頻度と臨床的特徴、疾患活動性に対する影響を調査検討した。【方法】 当院で生物学的製剤投与中の RA 患者を対象とした。RA の評価は DAS28-CRP4、SDAI、痛み VAS、罹病期間。FM の診断は 1990 年 ACR 分類基準 (ACR1990)、2010 年 ACR 予備診断基準 (ACR2010) を用いた。但し ACR2010 では RA を含め他疾患の有無に拘らないこととした。ADL は FIM、うつ病自己評価尺度は CES-D を用いた。主要評価項目は RA 患者の FM 分類基準を満たす症例の割合、副次的評価項目は RA 疾患活動性、ADL 評価 (FIM)、うつ病自己評価 (CES-D) の相互の関係とした。松原メイフラワー病院倫理委員会の承認、対象患者に対して書面での IC を得た。【結果】 RA 患者 89 人を対象とした。ACR1990 を満たす患者 3 人 (3.4%)、ACR2010 を満たす患者 7 人 (7.9%)、両方満たす患者は 2 人 (2.2%)。ACR2010 を満たす患者と満たさない患者では、DAS28 3.82 対 2.26、SDAI 21.03 対 7.05、痛み VAS 50.7 対 24.0、FIM 109.2 対 116.9、CED-S 14.5 対 12.6、年齢 72.3 歳対 68.2 歳、罹病期間 16.7 年対 20.0 年 (それぞれ平均) であった。【結論】 生物学的製剤投与中 RA 患者にも FM の診断基準を満たす症例が ACR1990 で 3.4%、ACR2010 で 7.9% 存在する。

利益相反：無